

議長定例記者会見 会見録

日時：令和7年7月1日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭発言

2 質疑項目

- 就任から1カ月が経過して
- 公立学校教員による児童盗撮について
- 県の人事異動について
- 参議院議員選挙について
- 県議会議員の定数について
- 選挙の応援について
- 教育警察常任委員会への対応について

1 冒頭発言

（議長）改めましておはようございます。ただ今から7月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。本日は、発表事項はありませんので、6月定例会会議を振り返って、一言述べたいと思います。今回、役員改選後の新体制による、最初の定例会会議を終えることができました。全ての議員が、気持ちを新たにして、審議に臨んだものと捉えています。本定例会会議では、一般会計補正予算や、児童虐待防止対策を強化するための「子どもを虐待から守る条例」の一部を改正する条例案等の審議・採決を行いました。一般会計補正予算では、米国の関税措置による影響が懸念される事業者への支援の他、エネルギー価格の負担軽減に向けた支援等を実施するための予算が追加提案されました。県内経済を取り巻く情勢の厳しさが続く中、経済支援策は事業者や県民の皆様にとって非常に重要な事項でもあり、また、喫緊の課題でもありますので、慎重に審議し、可決したところです。執行部におかれましては、早急に各事業に取り掛かり、県内経済の安定と発展に向けて、取り組んでいただきたいと思います。引き続き、県民の皆様からの負託に応えるべく、その役割をしっかりと果たしていきたいと考えております。私からは以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

2 質疑項目

○就任から1カ月が経過して

（記者）就任から1カ月過ぎましたが、これからの議会運営へのこういうことを目指したい、若者や女性の議会参画を促したいというような就任の言葉もありましたが、今後のこういったことを目指したいと、改めていただければと思います。

(議長) 所信表明で述べさせていただいた若者、そして女性が参画できるような議会運営というものが当然必要であるというのが主軸でございます。今の女性の会の全国大会(全国都道府県議会議長会 女性議員研究交流大会)も決定をいたしましたし、私たちの議会からは6名(注:正しくは「5名」)の女性が参加していくというような状況も聞いておりますし、確認をいたしました。実際、杉本熊野副議長が、ちょうど2年前に副議長の折に、しっかりとした形で、全国の議長会の会長さんに申し入れをされて、そしてそれが今ちょうどスタートが切れるんじゃないかなという思いでおりますので、その点だけはしっかりとこれからも応援していきたいと、このように考えております。まだ2カ月でございますので、その辺のところの報告というものは、これからの状況の中で説明をさせていただこうと、このように考えておりますので、よろしくご理解をいただきたいと思います。

○公立学校教員による児童盗撮について

(記者) 例のですね、名古屋市の教員の盗撮の事件でございますけれども、発覚したのがもう教育警察常任委員会がもう終わった後でございますか。ちょっとごめんなさい。もし議論されていたら申し訳ないですけど、常任委員会で特に議論はなかったのかなというふうに思いますけれども、今のところ三重県内でそういった加害者被害者、両方等発覚しているわけではありませんけれども、これ県議会として、どのように対応してですねいかれるのか、議長受け止めを含めて、今何か検討していることがあれば、お尋ねしたいんですけど。

(議長) 名古屋市の教員が、小学校で盗撮事件を起こしたということでございます。昨日、名古屋市の市長さんが、そういったところの説明を受けた状況の中で、急に体調を崩されて退室されたという記事も新聞でも読ませていただきました。実際に非常にこの教師である立場で、そのようなですね、本当に行動を起こすこと自体、許されないものでございますし、非常に遺憾でございます。もちろん、今、愛知県警のほうでいろいろと捜査をされておると理解しておりますけれども、グループをつくられて、10人ほどのグループがあるということも確認をしておりますけれども、もちろん新聞紙上で確認しているんですが、三重県警ではまだそんな状況も入っていないんだろーと思いますし、常任委員会の中で、正副委員長、しっかりとこの問題を協議いただいて、常任委員会として何らかの形で、教育委員会に対応するような、申し入れをしていただけるんじゃないかと思いますし、私からは松浦委員長にもその旨を、しっかりと対応してもらえるように、私からも申し伝えたいと考えております。

(記者) 松浦委員長への申し伝えは、これからということになりますか。

(議長) はい。これからの状況でありますし、今まだそんな、打ち合わせをしておりませんし、これから教育警察常任委員会の正副委員長に、しっかりとした対応をとるよう、私からは申し入れをしたいと思います。

(記者) このしっかりとした対応ということですが、例えば、加害者であったりとか被害者であったりとかですね、その事件の状況について、なかなか、教育委員会とか警察、教育警察常任委員会なんで両方ということですが、なかなかこの情報の入手であったりとか把握難しいのかなと思いますけれども、どうすべきとお考えですか。

(議長) 言われるとおりでございますし、警察当局に、実際に働きかけたり、調査したりということではございません。今三重県の小中学校、そしてまた高等学校の状況の中で、盗撮这件事情は当然、何も起こっていない状況だと私は信じておりますし、カメラの持ち込みだとか、これからは体育祭とかそういうこともございますので、実際に、盗撮事件が起きては困るわけですから、そういうところの注意喚起も含めて、常任委員会で、教育委員会に申し入れをしていただければありがたいかなと思っています。そしてまた三重県でも、この9月を目途に、アスリートに対する盗撮の条例を、今しっかりと考えていただいておりますし、同じ盗撮事件として扱われる状況ではないんだろうと思いますが、今回の小学校のことは刑事事件でございますので、そういったところもお互いに三重県もこれから考えていただければありがたいかなと思いますけど、今のところは、常任委員会で努力していただきたいと思います。すみません。訂正がございます。全国の女性の会議に出席いただくのは、5名ということでございますので申し訳ございません。6名と言い間違えましたので訂正願います。

○県の人事異動について

(記者) 県の人事の話についてもお尋ねさせてもらおうかなと思います。7月日付けで、複数の部長の異動がございました。観光部長は、国の職員ということになり、また、その影響で複数の部長を異動し退職された部長もいるということですが、この時期に複数の部長が動くということについての、もし所感があればお尋ねしたいんですがいかがでしょう。

(議長) 一般職の人事権というのは知事にあるということは理解しておりますし、部長級が異動するというような状況の中で、新聞にも出ておりましたように、観光部の部長が国のほうから来られるということでありましたし、これは当然われわれも懸念状況ではあるんですが、国のほうはどうしても6月末をもってという異動になりますので、そういった方を部長に来ていただくには、やはり6月末という形を取らざるを得ないのかなと。内示を受ける状況の中で決定をす

るということでもありますので、その点は致し方なかったんではないかなと思っております。時期的に遅いとか早いとか、早いということはないだろうと思いますが、遅い状況の中で、急な形で内示がありましたものですから、そういったところも、私たちもちょっと心配をしているところでもありますけども。

（記者）副議長ももしあればお尋ねしたいんですが、同じお考えですか。

（副議長）はい。

○参議院議員選挙について

（記者）よろしいですか。参院選の日程が発表されまして今週公示を迎えるんですけど、参院選に対しての、議長の今のお考えというのはありますでしょうか。

（議長）参議院選挙、7月3日ですね、公示が出ます。そういった状況の中でこれから選挙戦という形になろうかと思えますし、実際、私の場合、副議長は答えはまた後でされるかもわかりません。私の場合、選挙管理委員会のほうへ前もって確認をさせていただきました。演台に上がっていろいろな応援をするということに関して、選挙管理委員会としては、別に違反ではないんじゃないかと。その言葉、文言とかそういったところもやはり気を付けて話をするべきかなということは、自分自身は考えております。過激な発言とか、そういったものはしないように努力していこうかと思えます。これはあくまでも要請を受けた地域、その会場といいますか、そういうところも、私たちは、要請を受ければということじゃないんですけど、私たち地元の、例えば私三重郡ですので、菰野町、川越町、朝日町、3町がございます。そういったところだけは、公示以降も、何か集会があれば、そちらへ出向いて行かせていただいて、応援をさせていただこうかと、このように考えておりますけども。その点だけは、どのように扱われるのか分かりませんので、気を付けていきたいと思えます。

（記者）副議長はいかがでしょう。

（副議長）議長がおっしゃったとおりと思うんですけども、正副議長という立場はあくまでも議会内での立場でございますので、議会運営に対しての、中立性・公正性ということでございますので、一政治家として、議員としての地域の活動については、特にそれをもって、制限を受けることはないというのは、議長がおっしゃることと同じ考え方ですけども。誤解されるような、例えば議長とか副議長という肩書きをもって、政治活動するとか選挙運動をするとか、そういうことについては、それはふさわしくないと思っています。一地元議員としておることだと、そういうことだと考えさせていただいています。基本的には議長と同

じ考えています。

（議長）ちょっと補足をさせていただきます。いま副議長述べられました。私たち、どちらにしても、どこ行っても、三重県議会議長という紹介をされるわけなんです。あえてそれを拒むものかどうかというのは、私は、今の議長という立場は当然、この方が、話をされるのは、あると思っています。だから、議長だから選挙運動したらプラスになるかどうかと、それは私はまるっきり違うんじゃないかと理解しております。ですから、服部個人という形で、お話を聞かせていただき、聞いていただいて、それなら支援しようかという方が多く出れば幸いかなと思います。応援の言葉もきちっと選んで、話をさせていただこうと思っています。過激な発言はないようにと思っています。

－第二県政記者クラブも含めてお願いします－

○参議院議員選挙について

（記者）今の、参院選の関連からですけど。ぐるっとまとめると、服部議長はご自身の選挙区のところには、そういう形で呼ばれば行かれて、議長という立場でご紹介も受けて、発言されると。他の選挙区は、どうされますか。

（議長）公示を受けた場合、今、他の選挙区からは、何も要請は来ておりませんし、自分は今の三重郡という立場で、そのところで要請を受ければ行かしていたかどうかと考えております。

（記者）例えば大規模集会、四日市市とか、津とかあるわけじゃないですか。そのときに、自民党の公認候補者の方から、議長が出て欲しいとなった場合はどう判断されるんですか。

（議長）まだ、要請が来ておりませんので、その点、しっかりと話を聞かせていただいて、確認をしてから決定をしたいと思いますが、多分要請はないと思っています。

（記者）来たらその時はそれで考えると。

（議長）その時はその時で考えて、どのような内容の会なのかということも含めて出るか出ないかというのを決めさせていただきたいと思います。

（記者）すでに総決起大会を自民党公認候補者の方がやられてるんですけど、その時にもう出られたことはありますか。

(議長) はい。四日市の文化会館で一度、参議院候補者のところにも出させていただきました。その時も、まだ公示前でございますので、その点は自分自身も聞かせていただいたんですが、これから公示がスタートする。その時点では、これまた選挙戦また、対応が変わりますので、その辺どうかしっかりと考えて行動したいと思います。

(記者) 副議長、さっき肩書きをもってはふさわしくないとおっしゃってましたが、肩書き抜きで紹介されることはないと思うんで、それは例えば、応援に行かれたときに、そこは肩書きを外してくれとかいう話をされるんですか。

(副議長) そうですね。県議会議員という肩書きで紹介をしていただくようお願いしたほうが、議会全体としての、それは意見かというようなことを言われても困りますので、そういうふうにしていただけるよう、していただいた方がいいのかなと、個人的には思います。

(記者) 立憲の候補予定者の方の応援で、もう既に行かれたりはしてるんですか。

(副議長) 外へは、今のところ行っていないですね。

(記者) まだ行っていない。特に議長のように、ご自身の選挙区に限るとか、そういうお考えも今のところありませんか。

(副議長) 限定してるわけじゃないんですけども、事実上そんな感じになるんですよね。外へ行ってまで、私はその何か喋る立場でもないと思いますので。会派内とかいろんな立場を含めてですね。

○県の人事異動について

(記者) あとその部長人事なんですけど、国では国会の関係があるから年度途中の人事は当然あるんだけど、地方の場合は、比較的そういうのは、国とは違うので、途中でこの部長が数人替わるってことは、その常任委員会の当局側の責任者として答えてきたことの、整合性取れない場合があるじゃないですか。その関係からいったら議会の立場として、途中で当局側の各委員会ですね、責任者の答弁に、今までの分についても信憑性を欠く場合もあるし、その辺についてはどうなんですか。

(議長) 私としては、部長が替わられても、どなたが替わられたとしても、答弁に違いはないんだろうと思いますし、当然行政が、その担当部署が、やはり仕事をしていく上では、これは当然、部長の意見というのは当然反映されるのは、あ

ろうと思います。今後の形として、極端に変わるわけではございませんので、知事もこの部長に要請をしたいというお考えをされての要請だったと思いますので、その辺のところは、知事のお考えに当然、私は理解をしたいと思います。ですからその委員会が変わるということは、行政が変わるということは、私はまずないと思います。余りにも極端に変わった発言があった場合は、その常任委員会の中で、委員長ならびに委員の先生が、当然指摘をされるだろうと思います。それはもう、委員会のほうで考えていただいたらいいかなと思います。私のほうから、ちょっとその点は、以上で説明さしていただいたとおりなんですが。

（記者）副議長が所属されてる会派には県職員労働組合とか、その労組系の方の支持を受けた議員いらっしゃると思うんですけど、その立場からいってですね、部長が途中で替われば、4月で新体制でやってた職員たちで方針とかいろいろ出されてそれで動いてたのに、部長が替われば、付け足しとか方針が変わることもあるんですけど、その辺職員の立場に立ったときに、県議の立場としてですね、どう思われますか。職員経験はありますので。伊賀市でね。

（副議長）今回のことに関わらず、いろんなことで、年度途中で急に人事が替わらなきゃいけないということはあると思うんですね。体調崩されるとか、急に家庭の事情で退職されるとか、どんなこともあるので、組織としてそういうことがあっても継続してきちっと物が進めていけるということが、行政のあるべき姿だと思いますので、そういう意味では、ことさら議会としてこのことをあげつらって何かを言うということでもないのかなと思っています。

（記者）ただ、だからその職員経験のおありの森野副議長だから、あえて聞きますけど、今回の人事で見たら、別に例えば政策企画部長の小見山さんが3月末で定年だったからそのまま動いてですね、4月、元々一部報道で書いてた長崎さんをはめるっていう人事もあったわけですから、その形ではめてても別に問題なかったじゃないですか。この3ヶ月間は何で留め置かれてるかなって言えばですよ、小見山さんの尊厳と、知事は最近、尊厳と人権ということを大切にしたいとおっしゃいますけど、小見山さんの尊厳と人権っていうのは、逆に言ったら踏みにじられてると感じる場合もあると思うんです。その辺はどうお考えですか。

（副議長）どうなんでしょうね。私がコメントするべきかどうか分かりませんが、小見山部長も多分ご了解の上で、こういうことになられてるんじゃないのかなと思う部分もありますので、お断りすることもきっとできたでしょうから。延長することに関して選択されたので。

（記者）今までの定年を迎えた部長にすれば、県の外郭へある程度入ると。それ

が大体6月末ぐらいに理事会があつて、そこで承認されて7月1日とかあるいは6月に入られるんだけど、今回のもそういう意味では、そこはお約束ができたにしてもですよ。でも、例えば小見山さん個人としては3月末で切って、あとは長い間その苦勞をかけたなと奥さんと旅行するとかいろいろなそういうことはあるじゃないですか。3カ月間の休みを取るとか。でもそこは今回その知事の要請で、あえて涙を吞んでですね、そういうことしなかったわけですから。だとしたらその職員のライフワークってなんだっていう話になるので、その辺はどうかなのと思ったんですけど、それは知事に聞けってことですね。分かりました。あと服部議長が、多分この前の先月下旬に代表者会議があつて、行政委員の人事案件について知事自ら説明したと。あのときに、なぜその部長人事については言わなかったんだということについて、要は決まっていなかったからという解釈でよろしいですかね。あの段階では。

(議長) 言われるとおりでありまして、決まってないのに私も質問はできませんので、その辺のところは知事を始めとする知事部局でしっかりと形を整えて、そして発表していただければいいのかなと考えておりましたものですから、その点は私も質問はしませんでした。

(記者) つまりそこまでぎりぎりまで、今のその塩野さんに決まるか決まらないか、まあ本人にまだ伝わってなかったって話もありますけど、この前の代表者会議の時点では。だから喋れなかったって話もあるんですけど、大体そういう感じなんですね。

(議長) 私個人は全然知りませんでしたことですから。知事自体が、決定権の中で、当然まだ決まらなさとされたのかどうか、これは私は測ることができませんので、その点は申し上げることはできません。お答えを控えさせていただきます。

○公立学校教員による児童盗撮について

(記者) あと児童の盗撮の件ですけど、さっき議長はこれから教育関係委員長の松浦さんに、そういうことをお願いするとか指示するっていう話でしたけど。実際問題、今もう松浦さんが動かれようとして、それを止めに入ってるのは三教組（三重県教職員組合）ですよ。そのことはご存じですか。

(議長) いや、全然それは知りませんので。実際に私個人として、議長という立場で、こういった事件が愛知県名古屋市であったということも含めると、実際にSNSのグループをつくってやっていたという事実も出ております。そういった中で、三重県として早く対応して行って、職員を調べるわけではありませんので、そういったところを常任委員会で考えていただいて、教育委員会と協同で、

今後の小学校・中学校・高等学校に対してどのような発信の仕方をしていくか、先ほどお話をさせていただいたように、注意喚起をするとかそういったことは私が今思い付きで喋ったかわかりません。どういう形で小中高に対して発信して、これ三重県の、私はこれからの仕事だと思っておりますので、その点を踏まえて、常任委員会で正副委員長にお願いしようかと思っています。

(記者) いやだからそのSNSグループの中に、三重県の教員も入ってたんじゃないかとか。あるいは、それとは全く別件で、三重県の教員の中にそういうことがあるんじゃないかと。それを早く調べたいという形で、委員長自身が動かされたけど、結局三教組側からですね、要は今選挙前だと、参院選の。立憲公認の候補予定者は、要は教員出身だと。で、その方が直接とかいう話じゃなくて、それを支持してる三教組自身のイメージが悪くなるので、選挙に影響するからやめてくれっていう形で今、滞ってるって聞いたんですけど、この辺を議長としてどう差配されるんですか。

(議長) 今言われたような三教組の方が抑えてるということは、まるっきり私は知りませんので、事実かどうかはわかりません。ですから、私個人、自分の思いとして、議長としての立場で、こういった事件が愛知県で起きたことに、やはり三重県がどう動くのかというのは当然あってもしかるべきと思いますし、今、犯人探しをするわけではありませんので。今、いろいろと行われている部分に関して、小学校・中学校・高等学校に対して、カメラの持ち込みだとかいろんなこと、備品、防犯カメラだとかそういったことも含めて、どういう形で設置をされているか。そういうことも私は教育委員会の仕事だと思いますので、常任委員会の中でそういったことを含めて調査をしてもらいたいと思うだけで、どこどこの教師がどうだとかああだとか、そういう犯人探しするようなことでお願いをするわけではございません。

(記者) ちょっと論点ずれてると思うんですけど、議長がそこまでお思いになって、実際、関係常任委員長もそういうことをご自身で考えて動かれようとしてると。それを今、県内の一つのその三教組の団体が、ある意味そこにその関係の議員の方もいらっしゃるんですけど、県議会議員、そのあたりが要は、選挙終わるまでこの話は待ってくれという形で止められてると。だとすれば、議長の裁量として、これは絶対その選挙関係なく進めるべきだと。保護者から言ったら、その選挙関係ないですよ。今、じゃあ自分の子どもたちが実際そんなのにあってるのかとか、これを防がなきゃいけないとか、そういう思いがあるならば、少なくとも早急に調べて、結果を出さなきゃいけない。これは、おっしゃるように誰を批判するとかそういうことじゃない。制度としておかしいならそこは直さなきゃいけないんで、その意味で早急にやるべきなのが普通で、議長も同じよう

な考えならば、そこは議長サイドでそういう指示を出されるべきじゃないですか。

（議長）いろいろご指摘いただいてよく分かりました。当然正副で、当然議長で考えて、これから発信をしていかなきゃいけない立場でございますので、今お話をいただいた状況の中で、あえて申し上げますと犯人を探すとかそういったものをお話しをしているわけではありません。三重県には私はそういった方はいないだろうと思いますので、それを当然願いたいところでありますし、やはり学校自体の、今私があげさせていただいたように、当然防犯カメラとかいろんなところについているのかとか、そういったこともしっかりと私はやる、つけるべきだと思いますので、そういったことを進めていけるような、私は常任委員会の考え方であってほしいなと思います。私はどここの先生がどうのこうのという、そんな話をしているわけじゃありませんので、今の防犯のことに関して、小学校の中はというふうになってるのかということをやはり考えていただきたいなと思っておりますので、それを中心に動いていただきたいなと思います。

（記者）その辺は教警（教育警察常任委員会）の委員長とお話はされるんですか。

（議長）これからお話をさせていただこうと思います。

○県議会議員の定数について

（記者）あと昨日の採決もそうですけど、今現行44人でやってるじゃないですか。欠員、国会議員転出とかいろいろあって、市長になられたとか。下野さんが辞められてからもう既に8カ月たって、稲森さんが市長になられて、辞められて7カ月たって、小島さんが3月で辞められて今3カ月たったんですけど、44で実際議会は回ってるわけですよ。だとすれば、45定数って、作って実際実行はしなかったですけど、そのときの45定数条例を作った、奥野さんとか、舘さんとか、そこはある程度先見の明があったというふうにはお考えにならないですか。

（議長）その点も今お話しいただいたような状況の中で、私もこれから勉強させていただこうと考えておりますので、あえて控えさせていただきたいと思います。

（記者）あの時、服部議長は51に戻すほうに賛成されましたよね。

（議長）はい。

（記者）だから、逆に言ったら４５で回っているんなら、これはこれでいけるんじゃないとか、あるいは他の市議会、県内市町議会とかそういうところからも当然苦情は出ると思うんですよね。県がもともと４５作ったから自分のところも減らしたっていう伊勢市議会みたいなのところもあるわけだから。その辺も含めて、今答えは控えるということですか。

（議長）私も定数の問題は４８にしたときの副議長でございますので、そのへんのところはしっかりと捉えていかなきゃいけないと思っております。ですがやはりこれからどうするかということに関しては、また正副で考えて行動していきたいと思っておりますので、今はあまり考えておりません。

（記者）以上です。

○選挙の応援について

（記者）選挙応援演説のお話で、過激な発言はできるだけ気を付けたいということで、過激な発言というのは具体的に例えばどんなことを考えていらっしゃるんですか。

（議長）多分質問があるかなと思っていました。過激な発言というのは、相手の候補者の皆さんだとか、他の候補者さんに対して、やはり、なんて言うんですかね、失礼のような言葉を発するようなことは、私は止めていきたいと思います。ですから、応援に行った先の、候補者の方のいいところをやはりしっかりと話しをさせていただいて、そしてご理解をいただこうと、このように思っておりますので。他の候補者の方のことに 대해서는一切申し上げることはないと思います。

○教育警察常任委員会への対応について

（記者）教育の常任委員会のほうに申し入れる内容として確認なんですけども。防犯カメラの設置状況、小学校における設置状況を確認するように、常任委員会から県教委に申し入れるように指示するっていう理解でいいですか。

（議長）先ほど防犯カメラと言いましたが、防犯カメラではありません。やはりいろんなところでも目が届くような状況をつくってもらいたいと。皆さんがですね。ちょっと難しい状況なんですけど。ですからカメラの持ち込みだとか、携帯電話の持ち込みだとか、そういったことも含めると、どのような管理をしているかとかいうふうなことも含めると、今の学校自体によっていろいろ違うと思うんですよ。だから、防犯カメラがあるからって、何も犯罪を抑止できるかどうかと、これは別問題か分かりません。大事なところ、着替えているところに

防犯カメラをつくることはできませんので、だからそういった着替えをしているところとかそういったところは、どういった部屋なのか。どういった状況で使われているのか。そういったところも含めて調査をして欲しいということなんです。だから事件を、起きるというのは絶対ありえないと私は思いますけど、どのような形で、形態で女子の児童が着替えたりするようなところで着替えるのかとか。よく男女混合で例えば、お昼からは男子が着替える、午前中は女子児童がその部屋で着替えるとか、そういったことも、ちゃんと私たち議員としてもやっぱり考えておかなきゃいけないと思うんですよ。どのような形態でやっておられるかを、そういったところを調査してほしいということを私は説明願うつもりであります。

（記者） どういった状況で着替えをしているのかっていう部分を把握した上で、教員のカメラの持ち込み状況とかについても調べてもらいたいってことですか。

（議長） それは当然、それは逆に言うと、個人のものなのか、それとも、学校から与えられたカメラなのかとか、そういったことも細かくデータを出していただきたいと思いますね。これは当然やるべきだろうと。だけどそれが教員の皆さんを疑っておるわけでは何もありません。絶対にあってはいけないことです。それはもう三重県ではないんだろうと私は強く願っているところであります。

（記者） ありがとうございます。

（記者） あと、よろしいですか。どうもありがとうございました。

（議長） よろしいですか。ありがとうございました。またどうぞよろしくお願いいたします。

（ 以 上 ） １１時０９分 終了